



## イイケン先生の『恐縮ですが…一言コラム』

### 第 572 回 「人類」と「人」の違いは何なんだろう？

2014.4.13

毎日のようにマスコミを賑わかす小保方さん、もううんざりだと思っている人も多いただろう。専門外の部外者が、コメントする立場にはないのだが、この騒動をテレビを見て、全く小市民的感想を述べたくなかった。あたかも、バラエティを見ての雑感と同質かも知れない。

科学の事、その内部の構造、あるいは小保方さんの研究内容の真偽は、全く分からない。今回小保方騒動を見るにつけ、やっぱり「象牙の塔」と比喻される、現実から逃避するような学者の生活や、大学の研究室などの閉鎖社会の原理原則が歴然と存在するのだと感じた。正否は別として、それが現在の科学者のルールであり、常軌の鉄則であるとしたら、その事実を全く熟知していなかった小保方晴子さんの未熟さが目立ったような気がした。

でも、何ともスッキリしないのが、ノーベル化学賞を受賞した野依良治氏が理事長を務める、独立行政法人理化学研究所。1917年(大正6年)に創設された国内唯一の自然科学系総合研究所である。鈴木梅太郎、寺田寅彦、長岡半太郎、本多光太郎、湯川秀樹、朝永振一郎等多くの優秀な科学者を輩出した。国際的に高い研究業績を持つ研究所であり、JAPANの自慢の一つとして海外でも評価が高い。

そのリケンのトップ達がこぞって、今回の騒動の責任を小保方氏一人に押し付けた。彼女だけを悪者にして、平然と記者会見に臨む彼らの顔を見て、釈然としない人は多かったのではないかと。浅学菲才なる小市民の素朴な疑問は、一向に解決しないし、誰も語らない。彼女の論文や研究が悪意のある捏造や改ざんであったとすれば、なぜ事前に、誰も見抜けなかったのか？世界的権威があると言われる学術雑誌『ネイチャー』(Nature)は、掲載される前になぜ、分らなかったのか？

この研究や論文に関わった科学者は彼女一人ではない。共同研究者もいるにも拘らず、「俺は関係ない」で済ませてしまっても良いのだろうか？

彼女の研究と『ネイチャー誌』掲載を許した人達がいるだろう。あの晴れ晴れしい記者発表、割烹着をまとったマスコミ受けする演出を仕掛けた人もいたはずだ。

「手柄は全て俺のもの、失敗は全て部下のせい」こんな古びた言葉を思い出す。

権威ある科学者の世界とは、人格形成とは無縁の世界なのか、世界的騒動だからより、さびしくなってくる。「トカゲのしっぽ切り」なる事例が、いとも大々的に、しかも極めて安易な形で展開された「小保方事件」。

今現在、何も解決されていないが、人類への科学的貢献が、人としての倫理観を無視して行われるとすれば、「人類」と「人」の違いは何なんだろう？

小保方さんは、理研を辞めると、どうなるのか？ どうでもいいが、心配になる。